

平成29年度

伊東市教育委員会
自己点検・評価報告書

平成30年11月

伊東市教育委員会

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、平成29年度の伊東市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を報告するものである。

平成30年11月

伊東市教育委員会教育長 高橋 雄幸

目 次

1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1
3 教育委員会の活動	2
4 教育委員会が管理・執行する事務	2
5 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	3
6 伊東市教育委員会の自己点検・評価シート	4
7 学識経験者による意見	17

伊東市教育委員会の自己点検・評価について

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、平成29年度における伊東市教育委員会（以下「教育委員会」といいます。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより教育委員会の責任体制の明確化及び体制の充実・強化を図り、効果的な教育行政を推進します。

なお、点検及び評価を行う際には、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

伊東市では、第四次伊東市総合計画で「ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いたとう」という将来像を掲げています。教育委員会教育部では、その将来像の実現のために第十次基本計画において政策目標を「心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち」とし、その施策を「教育環境の整備」、「教育の充実（保育園）」、「教育の充実（幼稚園）」、「教育の充実（小・中学校）」、「生涯学習活動の推進」、「市民スポーツ活動の支援」、「歴史・芸術文化の振興」及び「青少年の健全な育成」の8項目としています。この8項目に「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」を加えた10項目に属する事業について点検・評価を行いました。

3 教育委員会の活動

本市の教育委員会は地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育長と4人の教育委員による合議体の組織として構成され、毎月の定例会開催のほか、必要に応じて臨時会を開催しています。

教育委員会は、合議により所管である学校やその他の教育機関の管理、学校教育施設に関する全般的な事務並びに社会教育、社会体育、学術及び文化に関する事務の管理、執行等について、本市の実情に即した教育行政を推進しています。

これらの教育事務を処理する教育委員会事務局は教育長の指揮監督の下に組織構成され、それぞれの事務を分掌しています。

4 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会が管理・執行する事務は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に定められていますが、伊東市教育委員会教育長に対する事務委任規則（昭和43年伊東市教育委員会規則第1号）の規定により教育長に委任されているものを除き、次の事務の執行を行うこととなっています。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- (4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (5) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定する点検及び評価に関すること。
- (6) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条及び第29条に規定する意見の申出に関すること。
- (7) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。
- (8) 社会教育関係委員・団体等の委員の委嘱に関すること。
- (9) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域の設定及び変更に関すること。

5 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務は、伊東市教育委員会教育長に対する事務委任規則の規定により教育長に委任されたものについて、伊東市第十次基本計画で教育委員会教育部各課が定めた方策を実現するための事業を推進しました。

- (1) 学校施設の環境整備（1事業）
- (2) 給食センターを活用した食育・地産地消の推進（3事業）
- (3) ICT教育環境整備の充実（3事業）
- (4) 少子化や地域の特性に対応した活力ある学校づくりの検討（1事業）
- (5) 多様な保育事業の実施（1事業）
- (6) 地域における子育て支援拠点施設の整備（1事業）
- (7) 待機児童解消に向けた取組の実施（1事業）
- (8) 障がい児童等への支援（1事業）
- (9) 認定こども園（幼保一体化施設）の整備（1事業）
- (10) 食育の推進（1事業）
- (11) 幼稚園教育の充実（2事業）
- (12) 保護者とともに子どもの育ちを支える支援の推進（2事業）
- (13) 集団保育を実施するための環境整備（1事業）
- (14) 子育てニーズに応じた幼保連携の推進（2事業）
- (15) 園・学校の基盤づくり（4事業）
- (16) 「学びを楽しむ力」の育成（3事業）
- (17) 「人として備えたい力」の育成（5事業）
- (18) 「命を守る力」の育成（4事業）
- (19) 教育的支援体制の充実（1事業）
- (20) 生涯学習機会の提供（3事業）
- (21) 市民の自発的生涯学習活動の推進（4事業）
- (22) 図書館機能の充実（2事業）
- (23) スポーツ指導者の養成（3事業）
- (24) 歴史、芸術文化に触れる機会の創出（2事業）
- (25) 歴史文化情報の発信（1事業）
- (26) 芸術文化活動の支援（1事業）
- (27) 声かけ・あいさつ運動の推進（1事業）
- (28) 地区青少年健全育成活動の活発化（1事業）

6 平成29年度 伊東市教育委員会の自己点検・評価シート

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、平成19年度から教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行っています。今回は、伊東市第十次基本計画の政策目標を達成するため、平成29年度に実施した各事業の活動をA～Eの5段階で評価・点検しています。なお、5段階評価の内容は以下のとおりです。

- A 目標を十分達成し、期待される成果が得られた(80%～100%)
- B 目標をおおむね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた(60%～80%)
- C 目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた(50%～60%)
- D 目標をあまり達成できず、成果が少なかった(30%～50%)
- E 目標をほとんど達成できず、成果がなかった(30%未満)

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育委員会が管理・執行する事務	1	教育委員会会議の運営及び運営改善	A	評価の視点 ・予定した定例会(12回)全てを開催し、案件66件(9件減)を審議した。 ・市内保育園・学校給食センターを視察し、職員との意見交換を行った。 ・定例会開催前の資料配布を求め、議事内容の理解を深めた上で会議に臨んだ。
				改善の視点	・議案の円滑かつ正確な審議に努めるとともに、必要最低限かつ専門用語を排した分かりやすい資料の提供を事務局に求める。
		2	教育委員会の会議の公開、市民への情報発信	A	評価の視点 ・定例会の公開を基本としたが傍聴者は0人だった。 ・会議録を速やかに市ホームページに掲載し、会議内容の公開に努めた。
				改善の視点	・定例会の開催日時や会議録を、告示板への掲示や市ホームページへの掲載により遅滞なく周知する。
		3	教育委員会と市長及び市長部局との連携	A	評価の視点 ・総合教育会議を開催し、教育大綱を改定し、今後の教育政策に関する方針を確認するとともに、教育の条件整備等の施策について協議を行った。また、機を捉え市長と意見交換を行った。
				改善の視点	・教育委員会側からも必要に応じて総合教育会議の開催を要請するとともに、継続して市長と意見交換を行うなど、更なる連携を深め本市教育行政の推進を図る。

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点
A	評価の視点 ・予定した定例会(12回)全てを開催し、案件75件(15件減)を審議した。 ・定例会開催前の資料配布を求め、議事内容の理解を深めた上で会議に臨んだ。
	改善の視点 ・議案の円滑かつ正確な審議に努めるとともに、必要最低限かつ専門用語を排した分かりやすい資料の提供を事務局に求める。
A	評価の視点 ・定例会の公開を基本としており、1人が傍聴した。 ・会議録を速やかに市ホームページに掲載し、会議内容の公開に努めた。
	改善の視点 ・会議録や次回定例会の日時を、告示板への掲示や市ホームページへの掲載により遅滞なく周知する。
A	評価の視点 ・総合教育会議で教育の条件整備等の施策について協議するとともに、機を捉え市長と意見交換を行った。
	改善の視点 ・教育委員会側からも総合教育会議の開催を要請し、更なる連携を深め本市教育行政の推進を図る。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育委員会が管理・執行する事務	4	教育委員の自己研さん	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員の出席を要する会議や意見交換会に積極的に出席し、市内及び他市町の情報収集を行った。 ・研修会等への参加に当たり、研修内容を考慮し、参加を決定した。
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教育現場の実情を知るため、積極的に足を運び関係者との意見交換を行う。 ・研修効果を上げるため、研修内容を考慮し参加時期を決定する。
		5	園、学校及び教育施設に対する支援並びに条件整備	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員それぞれが担当地区の教育施設を訪問し、関係者と意見交換を行った。 ・訪問した際の状況や意見交換の内容を定例会で報告し、教育委員会内での共有を図った。
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教職員との円滑な意見交換を行うため、学校と調整を図った上で訪問するよう努める。 ・集約した意見は定例会で積極的に発言する。
		6	教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伊東市の教育」の発行や、新年度の事業執行に当たり、教育行政の基本方針等の協議を行った。
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動で得た教育現場の意見を方針に反映させる。
		7	教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則2本、要綱5本及び規程2本を定めた。
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例規の迅速かつ的確な審議を心がける。
		8	教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法的な審議事項とすべき案件はなかったが、伊東市の学校規模・配置の現状と課題について、市長と意見交換を行った。また、3月に市立学校適正規模及び配置検討委員会が作成した学校・園の適正規模及び配置に関する建議書を受領し、伊東市教育問題懇話会への諮問案をまとめていくこととした。
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に保護者や園及び学校の現状の把握に努めるとともに、伊東市教育問題懇話会の審議内容を注視していく。
9	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊東市が抱える課題を解決できる教職員の配置を要望した。 		
			<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の適性を把握しつつ本市の課題解決を図るための適正配置とともに、教職員の一層の服務規律の遵守を求める。 		
10	地方教育行政組織及び運営に関する法律第26条に規定する教育委員会の管理及び執行の状況について点検及び評価に関すること。	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを意識した、より改善の見込まれる点検評価を行った。 		
			<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検評価方法による改善の度合いを見極めながら、新たな修正点を探る。 		

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員の出席を要する会議や意見交換会に積極的に出席し、市内及び他市の情報収集を行うとともに、法改正の把握や県等に対する要望を協議し伝えた。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教育現場の実情を知るため、積極的に足を運び関係者との意見交換を行う。 ・新任の教育委員に対する研修への参加は、研修効果を上げるため、研修内容を考慮し参加時期を決定する。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員それぞれで担当地区の教育施設を独自に訪問し、関係者と意見交換を行った。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教職員との円滑な意見交換を行うため、学校と調整を図った上で訪問するよう努める。 ・集約した意見は定例会で積極的に発言する。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伊東市の教育」の発行や、新年度の事業執行に当たり教育委員会基本方針等の協議を行った。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動で得た教育現場の意見を方針に反映させる。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則11本、要綱1本及び規程2本を定めた。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例規の迅速かつ的確な審議を心がける。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休園中の竹の台幼稚園新井分園を廃止する一方、教育施設の適正規模及び配置について建議を依頼した。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に保護者や園及び学校の現状の把握に努める。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊東市が抱える課題を解決できる教職員の配置を要望した。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の適性を把握しつつ本市の課題解決を図るための適正配置とともに、教職員の一層の服務規律の遵守を求める。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを意識した、より改善の見込まれる点検評価を行った。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検評価方法による改善の度合いを見極めながら、新たな修正点を探る。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
教育委員会が管理・執行する事務		11	地方教育行政組織及び運営に関する法律第29条(市長が議会へ議決を求める時の意見を聞くこと)に規定する意見の申出に関すること。	A	評価の視点 ・予算要求の内容報告を教育委員会事務局から受け、定例会の中で教育委員会の意見を明らかにした。	改善の視点 ・総合教育会議等も活用し、第29条に定める議案に対する意見を申し出る。
		12	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	A	評価の視点 ・重点化事業及び新規事業の予算要求について、定例会で審議を行った。	改善の視点 ・課題の解決につながる事業・予算であるか、という視点に立った審議を心掛ける。
		13	公民館運営審議会委員兼社会教育委員、文化財保護審議会委員及び図書館協議会委員の委嘱に関すること。	A	評価の視点 平成29年4月定例会にて公民館運営審議会委員兼社会教育委員10人の委嘱に関する審議を、平成29年9月定例会にて文化財保護審議会委員9人の委嘱に関する審議を行った。	改善の視点 ・各会の活動報告を求めるなど、活動内容の把握に努める。
		14	学齢児童生徒の就学すべき区域の設定及び変更に関すること。	-	評価の視点 ・審議すべき案件はなかった。	改善の視点 ・常に現状を把握する努力を重ねる。
教育総務課	教育環境の整備	15	学校施設 環境整備 学校施設 環境整備	A	評価の視点 ・学校現場から要望のあった修繕案件に対して、実施可能なものは速やかに対応するとともに、長期的な対応が必要な案件については改修計画に基づいた学校設備の維持管理を行った。 ・次の改修工事を行い、学校施設の環境改善・安全対策を図った。 【トイレ改修】東小、宇佐美小 【防水工事】東小、池小、対島中 【体育館照明LED化】東小、南小、 【パソコン教室空調】東小、池小、 【校舎・体育館窓ガラス飛散防止】東小、西小、川奈小、大池小、宇佐美小、八幡野小、富戸小、池小、南小、旭小、南中、北中、宇佐美中、対島中 ・老朽化した施設など、小学校201件・1,990万円、中学校118件・1,514万円の修繕を実施した。 ・【評価指標：トイレの改修済学校数 29年度目標：9校 実績：11校】	改善の視点 ・当初予算に加え生活環境向上対策予算も活用しながら、緊急性・危険性の高い案件から修繕を実施し、子どもたちの安全を守る。 ・修繕では対応できない案件について計画的に工事を実施し、安心・安全な学校環境の整備を図る。

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点 ・予算要求の内容報告を教育委員会事務局から受け、定例会の中で教育委員会の意見を明らかにした。	改善の視点 ・総合教育会議等も活用し、第29条に定める議案に対する意見を申し出る。
A	評価の視点 ・重点化事業及び新規事業の予算要求について、定例会で審議を行った。	改善の視点 ・課題の解決につながる事業・予算であるか、という視点に立った審議を心掛ける。
-	評価の視点 ・審議すべき案件はなかった。	改善の視点 ・委員の活動の把握に努める。
-	評価の視点 ・審議すべき案件はなかった。	改善の視点 ・常に現状を把握する努力を重ねる。
A	評価の視点 ・予定された修繕案件に対しては速やかに修繕を実施し、突発的な案件に対しては迅速な対応を心掛けるとともに、未対応案件については中長期的な改修計画に基づいた学校設備の維持管理を行った。 ・八幡野小、池小及び北中、対島中学校の校舎トイレの改修、東小及び南中、対島中学校の放送設備の改修、八幡野小、旭小学校プールの塗装、宇佐美小、八幡野小及び宇佐美中、門野中学校の屋内運動場照明のLED化、南小学校屋上防水工事、大池小学校駐車場整備工事を実施した。	改善の視点 ・当初予算に加え緊急経済対策予算も活用しながら、緊急性と危険性の高い案件から修繕を実施し、子どもたちの安全を守る。 ・修繕では対応できない案件について計画的に工事を実施し、安心・安全な学校環境の整備を図る。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育環境の整備	16	安全な学校給食の提供	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターを拠点に、給食関係職員が、定期的に調理講習会や衛生管理研修会を開催することで、安全な給食運営の体制が図られた。 ・市内統一のアレルギー対応方針の施行から1年が経過し、各校の運用状況調査では安全な提供体制が維持できていることを確認した。また、学校栄養士等と医師とでアレルギー対応に関する意見交換の場を設けるなど、更なる安全体制の確立に努めた。 ・下田高校に設置してある県の専門機器を活用した給食食材の放射性物質検査を平成24年度から引き続き実施し、いずれも検出はされなかった。(全8回で32食材の測定を実施)検査後、速やかに当該検査結果を市のホームページに掲載し、迅速な広報に努めた。 ・【評価指標：異物混入・アレルギー等の給食を原因とした人体に影響を及ぼす事項の発生件数 29年度目標：0件 実績0件】
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の食中毒、感染症の予防対策、アレルギー除去食の事故防止、中学生における食物アレルギーの対応について給食運営委員会等で専門医や薬剤師等の指導を引き続き受けるとともに施設ごとの情報を共有し、安全な体制が図れるよう努めていく。
		17	魅力ある学校給食の提供	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立作成会議を設けることで、「ふるさと給食の日」の設定や、地場産物及び伝統食の継承、食育推進に資する魅力ある手作りのおいしい給食提供に努めた。 ・給食センターの炊飯施設の開始に伴い、平成28年2学期から全小中学校の給食にサイカ式無洗米を導入した。味覚、栄養価、環境面、作業性で成果がみられた。 ・市の健康保養地づくり実行委員会が毎年開催している「野菜料理レシピコンテスト」の「学校給食部門」4回目の大賞の「アイランドルビーでとわに美しくボルシチもどき」や、県教育委員会主催の「親子で作る学校給食メニューコンクール」の優良賞「サバ男くんを入れたキンピラ」、また、伊東商業高校の生徒が考案した「鯖伊バーガー」を給食の新メニューとして献立にとりあげた。 ・【評価指標：給食における残食率 29年度目標：前年度実績未滿(5.02%) 実績：5.19%】
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの調理実習室を活用し、新メニューの開発や調理技術の向上、学校給食の内容の充実に努め、市内全ての給食室での安定的な調理体制を図る。 ・献立作成には、残食量データの活用や各コンクール受賞献立を積極的に取り上げるなど、より魅力ある学校給食の提供に努める。

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年2学期稼働の給食センターには、調理実習室を併設した研修室を設置し、給食関係職員が衛生管理研修会や情報交換を実施することで、安全な給食を提供する体制が図られた。 ・平成28年4月から市内全校で「伊東市の学校給食における食物アレルギー対応方針(平成27年12月策定)」に基づく対応を実施。学校及び保護者の協力を得ながら、アレルギー食提供に係る事故は無く、安全なアレルギー食の提供体制が構築された。 ・下田高校に設置してある県の専門機器を活用した給食食材の放射性物質検査を平成24年度から引き続き実施し、いずれも検出はされなかった。(全8回で32食材の測定を実施)検査後、速やかに当該検査結果を市のホームページに掲載し、迅速な広報に努めた。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の食中毒、感染症の予防対策、アレルギー除去食の事故防止、中学生における食物アレルギーの対応について給食運営委員会等で専門医や薬剤師等の指導を得て、安全な体制が図れるよう努めていく。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立作成会議を設けることで、「ふるさと給食の日」の設定や、地場産物及び伝統食の継承、食育推進に資する魅力ある手作りのおいしい学校給食の提供に努めた。 ・給食センターの炊飯施設の開始に伴い、平成28年2学期から全小中学校の給食にサイカ式無洗米を導入した。味覚、栄養価、環境面、作業性で成果がみられた。 ・市の健康保養地づくり実行委員会が毎年開催している「野菜料理レシピコンテスト」の「学校給食部門」3回目の大賞の「宇佐美のしらすと我が家のカボチャコロッケ」や、県の農林事務所主催の「高校生による和の給食コンテスト」で受賞した「お茶の葉入りつくね」「しらすのかき玉汁」を給食の新メニューとして献立にとりあげた。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの調理実習室を活用し、新メニューの開発や調理技術の向上、学校給食の内容の充実に努め、市内全ての給食室での安定的な調理体制を図る。また、残食量のデータを活用しより魅力ある学校給食の提供に努める。

【平成29年度】

【平成28年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育環境の整備	18	給食センターを活用した食育・地産地消の推進 学校給食を活用した食育・地産地消の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> 給食センターから給食が運搬される受配校8校を加え、新たに食育計画を作成し給食時間を活用した食育を実施している。栄養教諭等を中心に、学区で連携し生活習慣づくりの推進を図った。 地産地消推進事業については、平成28年度から保護者が負担する給食費とは別に市が地産地消推進事業費として経費を負担する取り組みを実施。地産地消推進事業費の活用により、高価な地場産物や供給量の少ない地場産物について各校で調整し計画的に導入を図ることができ、特色ある学校給食を実施することができた。 【評価指標：給食食材を納入する地元農家軒数 29年度目標：前年実績(4件)以上 実績：4件】
				改善の視点	食育は給食センターを中心に定期的に情報交換を実施することで、より体系的な指導の実現を目指す。地産地消推進事業については、積極的な活用により事業の更なる周知を図りたい。具体的には、各学校に専任農家を配し、地場産物として活用できる食材の拡充を図る。
		19	教育用パソコン整備	B	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度における教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は6.8人であった。【評価指標 29年度目標値 6.2人】 ※第2期教育振興基本計画で目標とされている水準は1台当たり児童生徒数3.6人
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> 本市にとって必要な教育パソコンの構成について、計画的に整備を進めていく。 平成31年度の小学校の教育用パソコンの更新に向けた協議を行う。
		20	ICT教育環境整備の充実 (前年度事業名：校内LAN整備)	D	<ul style="list-style-type: none"> 中学校5校の校内LAN(有線)を構築済み 小学校10校の校内LAN構築の検討を進めた。 【評価指標：無線LAN整備学校数 29年度目標値：5校 実績：2校】
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> 校内LANの整備とともに、無線LANの整備についても、計画的に整備を進めていく。 学校との協議を行い、必要な整備を進めていく。
		21	ICT機器の整備	D	<ul style="list-style-type: none"> 学校が希望するICT機器の調査を行い、地デジ対応テレビ(大型表示装置)等を整備した。 【評価指標：大型表示装置(テレビ等)の普通教室設置率 29年度目標：30% 実績：12%】
				改善の視点	第2期教育振興基本計画に示されたICT環境の整備目標にこだわらず、学校との協議の中で、本市にとって真に必要なICT機器の構成を検討し、計画的に整備を進めていく。

評価	評価及び改善の視点
A	<ul style="list-style-type: none"> 給食センターから給食が運搬される受配校8校を加え、新たに食育計画を作成し給食時間を活用した食育を実施している。栄養教諭等を中心に、学区で連携し生活習慣づくりの推進を図った。 地産地消推進事業については、平成28年度から保護者が負担する給食費とは別に市が地産地消推進事業費として経費を負担する取り組みを実施。地産地消推進事業費の活用により、高価な地場産物や供給量の少ない地場産物について各校で調整し計画的に導入を図ることができた。
改善の視点	給食センターを中心に定期的に情報交換を実施することで、より体系的な指導の実現を目指す。地産地消推進事業については、積極的な活用により事業の更なる周知を図り、農家に対し給食への新規参入を働きかけたい。
C	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度における教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は7.0人であった。 (第2期教育振興基本計画で目標とされている水準は1台当たり児童生徒数3.6人)
改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> 本市にとって必要な教育パソコンの構成について、計画的に整備を進めていく。 平成30年度の小学校の教育用パソコンの更新に向けた協議を行う。
D	<ul style="list-style-type: none"> 中学校5校の校内LANを構築済み 小学校10校の校内LANの構築を検討を進めた。
改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> 校内LANの整備とともに、無線LANの整備についても、計画的に整備を進めていく。 学校との協議を行い、必要な整備を進めていく。
D	<ul style="list-style-type: none"> 学校が希望するICT機器の調査を行い、地デジ対応テレビ(大型表示装置)を整備した。
改善の視点	第2期教育振興基本計画に示されたICT環境の整備目標にこだわらず、学校との協議の中で、本市にとって真に必要なICT機器の構成を検討し、計画的に整備を進めていく。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育環境の整備	22	少子化や地域の特性に対応した活力ある学校づくりの検討 小中学校の規模と配置の適正化	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模及び配置に関するアンケート調査を実施(回答者2,645人)し、「1学年当たりの望ましい学級数」や「今後、学級数が少ない学校が増えた場合の対応」などに対する本市の保護者や教員、児童生徒の意向を確認した。 ・学校・園適正規模及び配置検討委員会を3回開催し、アンケート結果をたたき台に、本市の学校規模及び配置に関する課題について検討を重ね、建議書として取りまとめるに至った。 ・【評価指標:市民意向調査の実施 平成29年度目標:調査実施 実績:調査実施】
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の学校規模等における課題として建議を受けた内容について、早急に総合教育会議で協議をし、教育委員会の諮問組織である教育問題懇話会に諮問する必要がある。
幼児教育課	教育の充実(保育園)	23	多様な保育事業の実施 休日保育等の特別保育事業の実施	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・休日保育は利用の少ない保育園1園を除き、全園で実施した。 ・玖須美保育園で一時預かり事業を開始した。
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・休日保育は利用の少ない保育園で休止を検討する。 ・病児保育、一時預かり事業、延長保育の充実の要望がある。
		24	地域における子育て支援拠点施設の整備 地域子育て支援拠点事業の充実	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に子育て支援センター(7か所)を利用した人数が約3万4,000人となった。
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が楽しめるような施設運営を目指す。
		25	待機児童解消に向けた取組の実施 待機児童解消計画の推進	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月1日時点の待機児童数は37人で昨年と比較し17人の増となった。
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育事業所開設への補助を行うなど、早期に待機児童の解消を目指す。
		26	障がい児童等への支援 障がい児保育の充実	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・全保育園への臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課保健師との連携により、発達に心配のある児童の支援体制を充実させた。 ・可能な限り障害のある児童の受け入れを行った。
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課との連携により、発達に心配のある児童の支援体制の充実を図る。 ・可能な限り障害のある児童の受け入れを行っていく。
		27	認定こども園(幼保一体化施設)の整備 認定こども園の整備	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園間の職員交流を行った。 ・認定こども園の建設に向けた検討を行った。
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園間の職員交流、認定こども園の勉強会を実施する。 ・認定こども園の建設に向けた調査・研究を行う。

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点	
D	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度末に立ち上げた「学校・園適正規模及び配置検討委員会」の第2回の会議を6月に開催し、市内幼・保・小・中の保護者に広くアンケート調査を実施し、学校の規模や配置に関する意向を調査することにした。 ・会議で出された意見をアンケート内容に反映する作業と、実施方法の調整に時間を要し、年度内実施には至らなかった。
	改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施と集計を早急に行い、調査結果を委員会に諮り、本市における課題の抽出を急ぐ必要がある。
B	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・休日保育は利用の少ない保育園1園を除き、全ての園で実施した。 ・保育園での病児保育を1園増加した。
	改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・休日保育は利用の少ない保育園で休止を検討する。 ・病児保育、一時預かり事業の充実の要望がある。
A	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉センター内に、新たな子育て支援の拠点となる子育て支援センターを整備した。
	改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が楽しめるような施設運営を目指す。
A	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年4月1日時点の待機児童数は20人で昨年と比較し、13人減となった。
	改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に待機児童の解消を目指す。
B	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・全保育園への臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課保健師との連携により、発達に心配のある児童の支援体制を充実させた。 ・可能な限り障害のある児童の受け入れを行った。
	改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課との連携により、発達に心配のある児童の支援体制の充実を図る。 ・可能な限り障害のある児童の受け入れを行っていく。
C	評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園間の職員交流を行った。 ・認定こども園の建設に向けた検討を行った。
	改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園間の職員交流、認定こども園の勉強会を実施する。 ・認定こども園の建設に向けた調査・研究を行う。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
幼児教育課	(教育の充実)	28	食育の推進	B	評価の視点	・日常保育や園内での野菜栽培により、食への興味、関心を育てる取組を行い、食べ物の有りがたさを感じさせる。
					改善の視点	・発達の段階に応じ、季節の食べ物や地場産品について掲示物などを通じて教えていく。
		29	幼児教育向上のための研修会への参加	A	評価の視点	・経験年数や年齢に応じた研修会の参加、園内研修、実質的な研修会参加者による報告会、市立幼稚園研究協議会主催による講演会の開催により、幼児教育向上が図られた。
					改善の視点	・研修による情報共有や、より専門的な研修の受講により、幼児教育向上を進める。
		30	幼稚園教育の充実 私立幼稚園への支援	A	評価の視点	・子ども子育て支援法に基づき、施設型給付費及び預かり保育委託料を野間自由幼稚園に支出し、新制度に移行していない伊東聖母幼稚園に対し、運営費補助金を支出するとともに、平成30年度に新制度移行に向けた支援を行った。
					改善の視点	・子ども子育て支援法に沿った幼稚園運営が行われているか、市による指導監査を行い、子育て環境の向上を図る。
		31	保護者とともに子どもの育ちを支える支援の推進	B	評価の視点	・宇佐美、八幡野幼稚園に加え荻幼稚園の3園で預かり保育開始した。目標値の5園に達していないが、実施園長で構成する準備委員会を3回開催し、各園での実施状況や課題により、内容の改善を図り、また、在園児及び入園予定者の保護者アンケート結果に基づき、実施内容の充実に向けた検討を行い、次年度への準備を行った。
					改善の視点	・実施状況及び保護者アンケート結果に基づき、保護者のニーズに沿った実施内容の改善を行うとともに、預かり保育従事者の研修受講により保育の質の向上を目指し、子育て支援の充実に努める。
		32	特別支援員の配置	A	評価の視点	・園や支援を必要とする園児の状況により、12園中10園に15人の特別支援員を配置した。園内研修及び全体研修により、質の高い支援を図った。
					改善の視点	・有資格者の特別支援員の確保、研修の実施、関係機関と連携し、園児一人一人の発達の特性に応じた適切な教育及び支援を目指す。

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点	
B	評価の視点	・日常保育や園内での野菜栽培により、食への興味、関心を育てる取組を行い、食べ物の有りがたさを感じさせる。
	改善の視点	・発達の段階に応じ、季節の食べ物や地場産品を教えていく。
A	評価の視点	・幼稚園教諭は年2回研修会に参加した。 ・実践的な研修会は報告会を開催することで、研修成果の共有を図り幼稚園教諭の資質向上に努めた。
	改善の視点	・経験や年齢に応じた研修会への参加を推進する。
B	評価の視点	・伊東聖母幼稚園 運営費の一部助成 ・野間自由幼稚園 子ども子育て支援新制度に基づき施設型給付費の支給、預かり保育委託を実施。
	改善の視点	・伊東聖母幼稚園 子ども子育て支援新制度移行への支援を行う。 ・野間自由幼稚園 子ども子育て支援新制度に基づき施設型給付費の支給、預かり保育委託を実施。
B	評価の視点	・宇佐美、八幡野幼稚園の2園で預かり保育を開始した。
	改善の視点	・荻幼稚園で預かり保育を開始する。 ・更なる充実を図るため準備委員会で検討を行い、利用者数増加を目指す。
B	評価の視点	・特別支援員を10人配置し、充実した支援を行うため研修会を2回実施した。
	改善の視点	・支援を必要とする園児の増加により、特別支援員を15人配置する。支援員の配置による効果などの検証や研修を行い、質の高い支援を目指す。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点		
幼児教育課	教育の充実（幼稚園）	33	集団保育を実施するための環境整備 複式クラス幼稚園の統合	C	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1園当たりの平均人数46.2人と目標値の50人に達していないが、池幼稚園及び富戸幼稚園での複式クラス、他園との交流により集団保育を実施する環境整備に努めた。また、集団保育確保が難しい宮川分園及び富戸幼稚園においては保護者説明会を開催し、幼稚園統合の準備を進めた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の統合や他園との交流により集団保育を実施する環境を整備し、保育の質の向上を目指す。 		
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ参加人数は18人と目標値の16人を達成した。通常保育や預かり保育実施及び運営に活かし、保育の質の向上を図った。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする園児の増加により、さくら園での人事交流の回数を増やし、専門的なスキルを習得し、適切な支援を目指す。 		
		35	公立幼稚園の認定こども園への移行	C	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園との人事交流及び認定こども園視察を行い、認定こども園移行への円滑な移行に向けた情報を収集を図る。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の視察、幼稚園の統合及び預かり保育実施園の増加を進め、認定こども園移行に努める。 		
				B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で地域や子供の実態に即した教育課程編成を考え、各校ならではの教育活動を行った。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動を定期的に反省し、加除訂正を図りながらより一層、特色があり、充実した編成となるようにしたい。 		
		教育指導課	教育の充実（小・中学校）	36	特色を生かした教育課程の編成	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域の人や環境と理解し、地域で子供を育てていけるような関係を築くようにした。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域間で取り組みに差がみられるので、各学区で互いに情報交換を進める中でより一層結びつきを深めていきたい。
						B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で清掃はもちろんのこと、学びに適した環境を整えられるようにした。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校・教室の環境整備に自発的に取り組めるように努めたい。
37	園・学校と地域との信頼関係強化			B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内一斉の挨拶運動はもちろんのこと、毎日自然に挨拶を交わし合えるような指導を行った。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学級、他学年、地域の人々などあまり接する機会が少ない人とも自然に挨拶できるようにしていきたい。 		
				B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業では、課題を明確にするとともに、個に応じた支援のあり方を追求する取り組みを進めてきた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の学習上の実態把握に努めるとともに、思考の流れを大切に授業展開を実践できるようにする。 		
38	美しく整った環境づくり	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の充実をめざし「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」の流れを大切に取組が見られた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が課題を明確にして取り組み、更に「分かる授業」づくりに努めたい。 				
39	明るい挨拶の習慣化	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校とも基本的な生活習慣として、挨拶を大切に指導しており、挨拶への意識は向上している。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、児童・生徒、教職員が更に自然に挨拶を交わせるようにしていきたい。 				
40	「学びを楽しむ力」の育成 基礎的・基本的な知識及び技能の定着	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の充実をめざし「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」の流れを大切に取組が見られた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が課題を明確にして取り組み、更に「分かる授業」づくりに努めたい。 				

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点
C	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇佐美幼稚園と宮川分園の統合について、伊東市立幼稚園適正配置準備会を設置し検討を行った。 ・幼稚園において保護者の意見を伺う懇談会を実施した。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇佐美幼稚園と宮川分園について、平成30年4月1日付で統合を行う。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園相談援助研修に保育士が参加し、幼稚園教諭と保育士との視点の違いなど相互理解を深めた。 ・幼稚園、保育園の施設間の職員研修を実施し、保育内容に対する理解を深めた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が参加する幼稚園、保育園の施設間の職員研修を引き続き実施する。
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の勉強会を開催した。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の視察を実施する。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で、自校や地域の特色を生かす教育課程の編成と実施に努めた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更に児童・生徒や地域の実態を的確に把握し、特色ある教育課程を編成したい。
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加や教育活動内容の地域への発信等は定着してきている。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更に開かれた学校にするために工夫した活動により、地域と共にある学校づくりに努めたい。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で、きれいな学校づくりのための様々な取組に努めた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の清掃活動の充実を図る中で、更に児童・生徒の美化意識の醸成に努めたい。
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校とも基本的な生活習慣として、挨拶を大切に指導しており、挨拶への意識は向上している。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、児童・生徒、教職員が更に自然に挨拶を交わせるようにしていきたい。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の充実をめざし「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」の流れを大切に取組が見られた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が課題を明確にして取り組み、更に「分かる授業」づくりに努めたい。

【平成29年度】

【平成28年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育指導課	教育の充実（小・中学校）	41	「学びを楽しむ力」の育成	B	評価の視点 ・学習状況調査の結果から、家庭学習の定着が図られてきていることが伺える。「学校の宿題をしていますか」という設問では、全国平均を小学校で1.4P、中学校で6.3P上回った。
					改善の視点 ・家庭学習の質を高め、学力向上につなげる取り組みをさらに進めていく。
		42	主体性や学ぶ意欲・態度の育成	B	評価の視点 ・支援員の適切な関わりが特別な支援を要する児童・生徒や低学力の児童・生徒の学習を支え、活躍の場を広げている。
					改善の視点 ・各教科において、教員が児童・生徒と学ぶ意義を共有していけるようにする。
		43	規範意識の育成	B	評価の視点 ・保幼小連携により、発達段階に応じて身につけるべき力が共有化され、浸透してきている。
					改善の視点 ・保幼小の連携に加え、家庭の協力をどのようにして得ていくかということが課題となる。
		44	自己肯定感の育成	B	評価の視点 ・特別支援教育の考えが浸透してきたことにより、良さを認め、伸ばそうとする指導・支援が定着してきている。
					改善の視点 ・教職員と児童生徒の関係だけでなく、児童生徒同士の関わりを意図的に進めていきたい。
45	「人として備えたい力」の育成	B	評価の視点 ・保幼小連携の柱として、継続的に取り組むことで、教職員の意識が高まっている。		
			改善の視点 ・教職員側のおさえとして、発達段階に応じた経験・体験を積み重ねていけるように意識したい。		
46	思いやりの育成	B	評価の視点 ・人間関係づくりプログラムの活用や行事等で意図的に関わりを設定し、相手の立場に立った言動等が意識されている。		
			改善の視点 ・学校生活の中で子どもの姿を的確にとらえ、声掛け等をしていく必要がある。		
47	社会性の育成	B	評価の視点 ・生活科や総合的な学習の時間の中で、積極的に地域の方々との触れ合いを行い、丁寧に指導されている。		
			改善の視点 ・地域などの大人、異学年、同学年など様々な集団での関わりを意図的に設定していく必要がある。		
48	「命を守る力」の育成	B	評価の視点 ・伊東市立学校防災対策方針を実態に即したものと変更を加えた。各校で防災計画を作成し、防災教育、避難訓練等を継続することで意識化が図られた。		
			改善の視点 ・交通安全、生活安全、災害安全のそれぞれの視点で、様々な場면을想定し、指導の徹底を図りたい。		

評価	評価及び改善の視点
B	評価の視点 ・ITO学校改善プランの「家庭学習のすすめ」「自主学習のアドバイス」の活用が図られてきている。
	改善の視点 ・児童・生徒一人一人に応じた学習支援の充実や、家庭学習の確実な見届けに努めたい。
B	評価の視点 ・全国学力学習状況調査の結果を受けて、前向きに学習に取り組もうとする様子が見られた。
	改善の視点 ・児童・生徒が解決したい課題の設定を意識し、主体的・意欲的に取り組む授業づくりを推進したい。
B	評価の視点 ・保幼小連携により、発達段階に応じた身につけるべき力の意識化が図られ、浸透してきている。
	改善の視点 ・保幼小連携を更に深めるとともに、家庭・地域との協力により、規範意識の育成に努めたい。
B	評価の視点 ・教職員が児童・生徒の良さを認め、伸ばそうとする指導・支援が定着してきている。
	改善の視点 ・教職員による関わりだけでなく、児童・生徒がお互いに認め、高め合う体制づくりの充実に努めたい。
B	評価の視点 ・保幼小連携の柱として取り組むことで、教職員の意識化が図られ、継続した指導が見られる。
	改善の視点 ・発達段階に応じて、学校生活の様々な場面で、粘り強い指導・支援の積み重ねを目指したい。
B	評価の視点 ・「人間関係づくりプログラム」の活用が図られ、相手の立場に立った行動・言動が意識されている。
	改善の視点 ・学校生活での子どもの姿を的確に見取り、思いやりが育成されているかを常時確認していきたい。
B	評価の視点 ・生活科や総合的な学習の中で、地域の方々との触れ合いを通し丁寧に指導されている。
	改善の視点 ・学校生活の様々な場面で、社会の一員としての意識を、継続して丁寧に指導・支援していきたい。
B	評価の視点 ・伊東市立学校防災対策方針に基づき、全校で学校防災計画を作成し、有事の際の行動を継続して指導することで意識化が図られた。
	改善の視点 ・日常的な訓練の充実を目指し、自分の命を守るためにとるべき行動について、指導の徹底を図りたい。

【平成29年度】

【平成28年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点		評価	評価及び改善の視点		
						評価の視点	改善の視点		評価の視点	改善の視点	
教育指導課	教育の充実（小・中学校）	49	健康的な生活習慣の定着	B	評価の視点	・「早寝、早起き、朝ごはん」についての指導が継続的に行われ、規則正しい生活を送ろうとする意識の向上が見られた。	←	B	評価の視点	・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さが周知され、規則正しい生活を送ろうとする意識の向上が見られた。	
					改善の視点	・家庭環境に差があり、児童生徒一人一人に目を向けるなど、個への支援の充実を図りたい。			改善の視点	・児童・生徒一人一人への支援を充実させ、関係機関との協力の中で生活習慣の向上を図りたい。	
					50	「命を守る力」の育成		B	評価の視点	・栄養教諭による食育授業を継続しており、発達段階に応じて、食の大切さ等について意識化が図られている。	←
		改善の視点	・食育授業を継続し、家庭との連携をさらに進めることで学んだことについての定着を図りたい。	改善の視点			・食育授業の継続により、食の重要性について更に理解を深め、日常生活に生かせるようにしたい。				
		51	丈夫で健康な体の育成	B	評価の視点	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を見ても、全体的に全国平均を上回っている。	←	B	評価の視点	・全体的には、体力・運動習慣調査の結果は全国平均を上回っており、良好である。	
					改善の視点	・生涯スポーツの視点を持ち、運動に親む態度を養い、一人一人が体力向上に向けての目標を持てるようにしたい。			改善の視点	・児童・生徒一人一人が体力向上に向けての目標を持ち、自主的に取り組んでいくことを期待したい。	
		52	教育的支援体制の充実	教育支援の充実	A	評価の視点	・特別支援教育支援員等の増員をはじめ、多人数学級支援員も増員し、様々な児童生徒へ対応できるようにした。	←	B	評価の視点	・特別な支援を必要とする児童生徒等に対応するため、各種支援員、介助員等を増員して配置した。
						改善の視点	・様々な支援を要する児童生徒が増加している状況に対応できるよう今後も引き続き充実を図りたい。			改善の視点	・引き続き、児童生徒の状況に応じた各種支援員、介助員等の配置に努め、一人一人の向上への支援を行う。
生涯学習課	生涯学習活動の推進	53	学習情報の収集発信	A	評価の視点	・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。(29年度目標値220団体、実績229団体、目標達成)	←	A	評価の視点	・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。(28年度目標値240団体、実績208団体、達成度87%)	
					改善の視点	・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらうよう取り組む。			改善の視点	・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらうよう取り組む。	
		54	生涯学習指導者の育成	A	評価の視点	・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。(29年度目標値70人、実績67人、達成度96%)	←	A	評価の視点	・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。(28年度目標値60人、実績84人、目標達成)	
					改善の視点	・今後も指導者の育成を図ることができるよう生涯学習の環境を向上させていく。			改善の視点	・今後も指導者の育成を図ることができるよう生涯学習の環境を向上させていく。	
		55	生涯学習団体の情報提供	B	評価の視点	・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。(29年度目標値22件、実績17件、達成度77%)	←	C	評価の視点	・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。(28年度目標値22件、実績12件、達成度55%)	
					改善の視点	・各団体の情報を多くの市民に知ってもらうため、情報提供のわかりやすさのほか、情報提供する媒体を増やすよう努める。			改善の視点	・各団体の情報を多くの市民に知ってもらうため、情報提供する媒体を増やすよう努める。	

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
生涯学習課	生涯学習活動の推進	56	市民向け学習講座・教室の開催	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大学・いでゆ大学の延べ参加者数を指標とし、市民向け学習講座等をきっかけに参加者が新たなサークル等を作り、自主活動を広げ学習機会の充実を図った。(29年度目標値1,550人、実績1,713人、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも多くの市民の学習機会を創出するため、ニーズに合った学習メニューの設定のほか、開催場所や時間などを検討していく。
				B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動を積極的に行う団体数を指標とし、その団体を支援することにより地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進を図った。(29年度目標値243団体、実績176団体、達成度72%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動を積極的に行う団体を支援し、多くの団体が活動できる環境整備を図っていく。
		58	市民の自発的生涯学習活動の推進 学習成果を活かした地域における学習交流の推進	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターの自主的サークルの使用回数を指標とし、地域における学習交流の推進を図った。(29年度目標値延べ6,700回、実績延べ6,210回、達成度93%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における学習交流拠点である施設の利便性を高め、市民の自主的な活動を推進する。
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい家庭づくりや豊かなまちづくりを目的に幼稚園・小中学校で実施している家庭教育学級の実施校数を指標とし、家庭教育に関する学習機会の充実を図った。(29年度目標値10校、実績10校、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各幼稚園・小中学校での開催が増加するよう実施方法について調査・研究を行いながら積極的に支援していく。
		60	図書資料の充実	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書資料を充実させるため、年間を通して計画的に図書資料を購入した。(29年度目標値5,870冊、実績4,457冊、達成度76%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の冊数が購入できるよう、計画的な予算増に取り組んでいく。
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出延人数を指標とし、利用者の利便性向上に努めたが、目標人数には届かなかった。(29年度目標値72,160人、実績60,962人、達成度85%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加のため、現状のスペースの中でも配架に工夫を凝らし、特集コーナーの充実を図るなど、利用しやすい図書館を目指すとともに、予約資料の生涯学習センターでの館外受取りなど利用者サービスの充実を図っていく。

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大学・いでゆ大学の延べ参加者数を指標とし、市民向け学習講座等をきっかけに参加者が新たなサークル等を作り、自主活動を広げ学習機会の充実を図った。(28年度目標値1,500人、実績1,539人、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも多くの市民の学習機会を創出するため、ニーズに合った学習メニューの設定や開催時間などを検討していく。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動を積極的に行う団体数を指標とし、その団体を支援することにより地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進を図った。(28年度目標値250団体、実績208団体、達成度83%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動を積極的に行う団体を支援し、多くの団体が活動できる場を作って行く。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターの自主的サークルの使用回数を指標とし、地域における学習交流の推進を図った。(28年度目標値延べ6,600回、実績延べ6,301回、達成度95%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における学習交流拠点である施設の利便性を高め、市民の自主的な活動を推進する。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい家庭づくりや豊かなまちづくりを目的に幼稚園・小中学校で実施している家庭教育学級の実施校数を指標とし、家庭教育に関する学習機会の充実を図った。(28年度目標値8校、実績22校、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも各幼稚園・小中学校での開催に対し積極的に支援していく。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書資料を充実させるため、年間を通して計画的に図書資料を購入した。(28年度目標値5,110冊、実績4,253冊、達成度83%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の冊数が購入できるよう、計画的な予算増に取り組んでいく。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出総冊数を指標とし、利用者の利便性向上に努めたが、目標冊数には届かなかった。(28年度目標値260,860冊、実績215,860冊、達成度83%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数増加のため、図書館からの情報発信に努めるとともに、選書に工夫を凝らし、特集コーナーの充実を図るなど、利用者サービスの更なる向上に努める。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
生涯学習課	市民スポーツ活動の支援	62	スポーツ指導者の養成	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者の指導者数を指標とし、市民が気軽にスポーツを行える環境を整備した。(29年度目標値85人、実績62人、達成度73%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者同士の横の連携を深め、情報共有することにより、指導者の不安や悩みが解消できるよう努める。
				63	スポーツ大会や教室の実施
		64	スポーツ環境の整備		
				65	市芸術祭の開催
		66	文化財等に関する講座・教室の開催		
				67	歴史文化情報の発信

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者の指導者数を指標とし、市民が気軽にスポーツを行える環境を整備した。(28年度目標値80人、実績72人、達成度90%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者同士の横の連携を深め、情報共有することにより、指導者の不安や悩みが解消できるよう努める。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会の参加人数を指標とし、市民がスポーツに参加できる機会を提供した。(28年度目標値10,200人、実績11,108人、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツへの関心は高いことから、今後も参加機会の提供が増加できるよう努める。
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設改修計画に基づく改修率を指標とし、市民が広く利用できる施設の環境整備を行っていく。(取組回数28年度目標値5回、実績3回、達成度60%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民体育センターの耐震化工事を実施し、利用者からは好評を得ている。伊東市体育施設整備基金も大幅な積み立てができ、今後も施設整備の調査・研究に努める。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市芸術祭の出品者数、参加者数、観客数の合計を指標とし、市民が自ら芸術文化に触れる機会の創出を図った。(28年度目標値13,000人、実績12,719人、達成度98%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に減少傾向にある中、展示の工夫などにより、現状維持されている。今後も更なる工夫や、市民の参加を促していく。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座及び教室の参加者数を指標とし、文化財に対する理解を深めた。(28年度目標値80人、実績533人、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校への出前授業や団体への出前講座により、文化財や歴史の普及に努めた。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史編さん事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(28年度目標値220人、実績250人、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん事業によって収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。

【平成29年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
生涯学習課	文化史の・芸術	68	芸術文化活動の支援	文化育成への支援	D	評価の視点 ・伝統文化子ども育成支援数を指標とし、伝統文化の育成と継承に努めた。(29年度目標値7団体、実績3団体、達成度43%)
						改善の視点 ・伝統文化子ども育成支援件数を増やすため、継続支援や広報により、伝統文化の育成と継承に努める。
	青少年の健全な育成	69	声かけ・あいさつ運動の推進	声かけあいさつ運動の推進	A	評価の視点 ・あいさつ運動賛同者数を指標とし、学校や各団体等と連携を図り、組織的にあいさつの輪を広げていき、地域づくりや安全な環境づくりに寄与した。(29年度目標値18,300人、実績17,143人、達成度94%)
						改善の視点 ・日々の活動や7月、11月のあいさつ一斉活動等を中心に取組むほか、本活動を掲載している「かわら版」を広報に折込む等、市民に周知し賛同者を増やし市全体で「あいさつ運動」を推進していく。
		70	地区青少年健全育成活動の活発化	青少年育成市民会議の推進	B	評価の視点 ・地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数を指標とし、市民総ぐるみの運動を展開し、青少年の心身の健全な育成を図った。(29年度目標値510人、実績356人、達成度70%)
						改善の視点 ・市内15地区にある青少年育成市民会議の活動を積極的に支援することで活性化を図っていくほか、少子化等により活動を縮小せざるを得ない地区等には、効果的な活動を協議していく。

【平成28年度】

評価	評価及び改善の視点
A	評価の視点 ・伝統文化子ども育成支援数を指標とし、伝統文化の育成と継承に努めた。(28年度目標値6団体、実績5団体、達成度83%)
	改善の視点 ・伝統文化子ども育成支援件数を増やすため、継続支援や広報により、伝統文化の育成と継承に努める。
A	評価の視点 ・あいさつ運動賛同者数を指標とし、学校や各団体等と連携を図り、組織的にあいさつの輪を広げていき、地域づくりや安全な環境づくりに寄与した。(28年度目標値17,400人、実績17,008人、達成度98%)
	改善の視点 ・日々の活動や7月、11月のあいさつ一斉活動等を中心に取組むほか、本活動を掲載している「かわら版」を広報に折込む等、市民に周知し賛同者を増やし市全体で「あいさつ運動」を推進していく。
A	評価の視点 ・地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数を指標とし、市民総ぐるみの運動を展開し、青少年の心身の健全な育成を図った。(28年度目標値500人、実績439人、達成度88%)
	改善の視点 ・市内15地区にある青少年育成市民会議の活動を積極的に支援することで活性化を図っていくほか、少子化等により活動が停滞している地区等には、活動が停滞化しない方策を考えていく。



7 学識経験者による意見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている学識経験者による知見の活用は、今日までの伊東市の教育行政の課題を理解しているという観点から本年度も保護者団体、教育経験者等を活用することとし、次の3名の方から様々なご意見、ご助言をいただきました。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属 等
小田 靖久	教育経験者（伊東市立学校校長会会長）
武智 一雄	伊東市P T A連絡協議会会長
佐藤 潤一	元教育委員長

○ 伊東市教育委員会の自己点検・評価への意見

1 全体の評価に対する印象

- (1) 前年度と比較して評価向上が8事業、評価低下も8事業となっています。向上している事業については、前年度の「改善の視点」が生かされていると感じました。「改善の視点」を大切にし、形骸化することなく、より具体的に次年度へ向けての課題解決へ向けての方策が示されるとよいと感じました。
- (2) 教育委員会各課では昨年度末の状況や今年度当初の様子から、来年度へ向けての予算獲得へ向けての取り組みが行われていることを考えると、この報告書は「2年遅れ」の文書となります。今年度の様々な事業は、昨年度の評価や反省の上に取り組みられていることと思いますので、大変ですがこの報告書を年度当初に作成することで、教育委員会としてのP D C Aの具体を明確に示せるのではないかと思います。
- (3) K P I（Key Performance Indicator：目標の達成度を評価するための主要な業績評価指標）を実施しており、数値目標に対しての達成率が評価軸になっているかと思われます。そのためか数値目標化されていない事業に関してはB評価が多いように感じました。

数値化することが困難な事業でも、重要度が高く、優先的に達成すべきものもあり、達成に向けて、多くの人的・時間的・金銭的なコストを割いていると思われます。その優先順位が高い事業がなんなのかを知りたいと思いました。つまり、各課が『これはなんとしても達成したい』という事業を明確に示して

いただけると意見しやすいですし、組織としてはそうあって良いものと考えます。

- (4) 全体の評価としては、大変努力されている様で毎日起こる問題解決に教育委員、事務局の皆さんの努力を感じる所です。

2 教育委員会の活動

- (1) 様々な教育に関する課題が社会の中で話題になりますので、教育委員会・教育委員の役割は大変重く、日々御苦勞されていることと思います。今後もよろしく申し上げます。
- (2) 教育委員会、教育委員は、保育園、幼稚園、学校、生涯学習に関わる現場の方々との意見交換や情報収集を継続して行い、その声や課題を市長や市長部局に積極的に伝えていただき、子供達のより良い学校環境を構築していただきますよう、お願いいたします。
- (3) 教育委員会と市PTA連絡協議会との関係について、両者とも子どもの教育という同じ目的、同じターゲットを見ている組織であるなら、コミュニケーションはもっとあってしかるべきものと思われます。
- (4) 「No.2 教育委員会の会議の公開、市民への情報発信」については、そもそも会議が行われていることも知りませんでした。今後、さらなる周知を望みます。
- (5) 「No.8 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関する事」については、伊東市の将来を見通し、子ども達にとって望ましい園・学校の適正配置を目指していただきますようよろしく申し上げます。今後、教育問題懇話会で具体について議論されることと思いますが、園や学校現場で子どもと接している職員の生の声も大切にさせていただきますよう合わせてお願いいたします。

3 教育環境の整備

- (1) 「No.15 学校施設の環境整備」については、学校からの要望に迅速に対応していただきありがたく思います。さらに各校の実態に応じた対応に心掛けていただくとともに、市内全体での計画的な整備をお願いします。
- (2) 「No.16 安全な学校給食の提供」については、特にアレルギー対応で対応指針の浸透とともに、センター・学校・保護者との連携も密に行われていることから、安全体制が維持されています。今後も細心の注意を払い、この状態が継続されるようお願いします。

- (3) 「No.17 魅力ある学校給食の提供」「No.18 学校給食を活用した食育・地産地消の推進」については、食材や献立で様々な工夫をされていることを感じています。評価としては前年度から低下していますが、「伊東ならではの給食」を目指し、今後もよろしく願います。
- (4) 「No.19 教育用パソコンの整備」については、現在パソコン1台当たりの児童・生徒数が6.8人となっています。1台当たり3.6人の目標の達成は大切であり、全国の環境整備に立ち遅れないよう、一層の努力をお願いします。
- (5) 「No.21 ICT機器の整備」については、本市の課題であると感じています。パソコン整備、地デジ対応テレビの設置については計画的に迅速に進めていただきますよう願います。

また、クーラー設置の課題等、緊急度が高いものからの対応が必須とされるため、ICT設備等の重要度は高いが緊急度が低いものへの投資が遅れることが懸念されます。教育に観光要素を取り入れ、子どもの観光情報発信を促進するなどの施策を絡めて、市役所のセクションをまたいだ対策も考慮していただきたいと思います。

教育を現在だけの課題と捉えず、未来の伊東の問題解決の投資と捉えることが必要であり、そういった意識を持つことが重要だと思います。

4 教育の充実

- (1) 特別に支援が必要な子どもの割合が今後も増加していくと思われまます。現在は園や学校それぞれで支援体制の整備に取り組んでいただき、年々充実してきており評価できると考えます。今後さらに支援が必要な子どもへの的確に、そして継続して対応していくためには、保・幼・小・中を貫く体制の構築が必要ではないかと考えます。
- (2) 「No.25 待機児童解消計画の推進」については、若い世代にとって、豊かに暮らすためにとても重要な事であり、伊東市にとっても、子育て環境が良くなれば、若い人が伊東市に移り住んでいただける事にもつながるため、是非いち早い解決への努力をお願いします。
- (3) 「No.27 認定こども園の整備」については、とてもハードルの高い重要な事業であり全国に先駆けてどうあるべきか、研究、勉強していただき、教育委員、事務局、幼保関係者の皆さんを交え、交流を深め、実のあるものにしていただければと思います。
- (4) 「No.47 社会性の育成」については、今後、学校統廃合の問題と合わせ、地域との関わり方、地域と学校が関わることでの子ども側と大人側のそれぞれ

のメリット、必要性をしっかりと考えた上での仕組み作りを期待します。『なぜ地域と関わるのか』ということの意義が見えないまま、なんとなくそう言われているからやっている的なものだと、結果を残すことが難しいように思います。

最近知った一つの取り組みとして、三島市の小学四年生の夏休みの宿題で、『大人、40人に三島のいいところをインタビューしてくる』というものがあるそうです。そうすることで、子どもはもとより大人も地域の魅力を再認識し、また、子どもに関心を持つという両方の効果があると思います。

5 生涯学習課の事業全体について

- (1) 少子化、高齢化にさらに拍車がかかることは明白です。「数」を目標値とすることが客観的に評価しやすいわけですが、それだけを目指してしまうと絶対数が減少する中、達成はさらに困難になり、様々な取組の形骸化が心配されます。定量的評価だけでなく、「伊東市の生涯学習」として、内容の充実を目標に掲げていくことが今後必要となるのではないかと感じました。
- (2) 「No.55 生涯学習団体の情報提供」については、おそらく、生涯学習に興味のある人への情報はある程度リーチできていると想像できますが、興味ない人へどうやってアプローチするかが大変なところだと思われます。一つには今まで興味がなかった人にも刺さるようなコンテンツを作り、そこをスタートとして、生涯学習の入り口を作っていくことが考えられます。「No.56 市民向け学習講座・教室の開催」にも関連しますが、ニーズにあった学習のターゲットが既存なのか、新規なのか、誰のニーズなのか把握することが重要です。観光や産業とタッグを組む等、セクションを超えてトライしていただきたいと思います。根本的な話になってしまいますが、他部署とのコラボ企画はけっこうあるのでしょうか。コラボ企画をノルマ化しても良いと思います。
- (3) 「No.58 学習成果を活かした地域における学習交流の推進」については、もっと頑張りたいと思います。そもそもぬるい街、それが伊東。それが良いところでもあるのですが、積極的な変化や成長を求めない風土にもつながってしまっているように分析しています。学習成果を活かし、雨後のタケノコのように自主的に、かつ継続的に活動が活発化して欲しいと願っております。どうすれば良いかという具体案はありませんが、それこそ熱意とか利他とかそういう気持ちの部分が必要になると思います。